關東大災害画報

序

東京は焦土と化し横濱は全滅し湘南房總の一角は全潰したとの飛報は、帝國津々浦々は元より世界の端まで響き渡つた、建國以來種々の天變地異は有つたが此れ程甚大なるものは無いのである。

時正に大正十二年九月一日午前十一時五十五分、遠雷の如き響と共に地震は刻一刻其の威を逞し、歩行は困難となり家は倒れ地は裂かれ阿鼻叫喚は至る處に起つた、忽ちにして火焰は數十ケ所に起り紅蓮の焰は何物をも燒き盡さんとする勢である、狼狽度を失ひ逃れ出でたる場所も亦火の襲ふ處となつた、唯見る一面の火の海、親に離れ子を失ひ力盡きて燒死するもの窒息するもの其數幾何なるを知らず、焦熱の苦みより逃れんとして無中に河中に飛込みて溺死せるもの無數である。正に現世の焦熱地獄とは此の事であらう、唯僅かに生を得たるものも流言飛語に疑心暗鬼を生じ前途を悲觀し恐怖の餘り自殺せんとしたものもあつた。

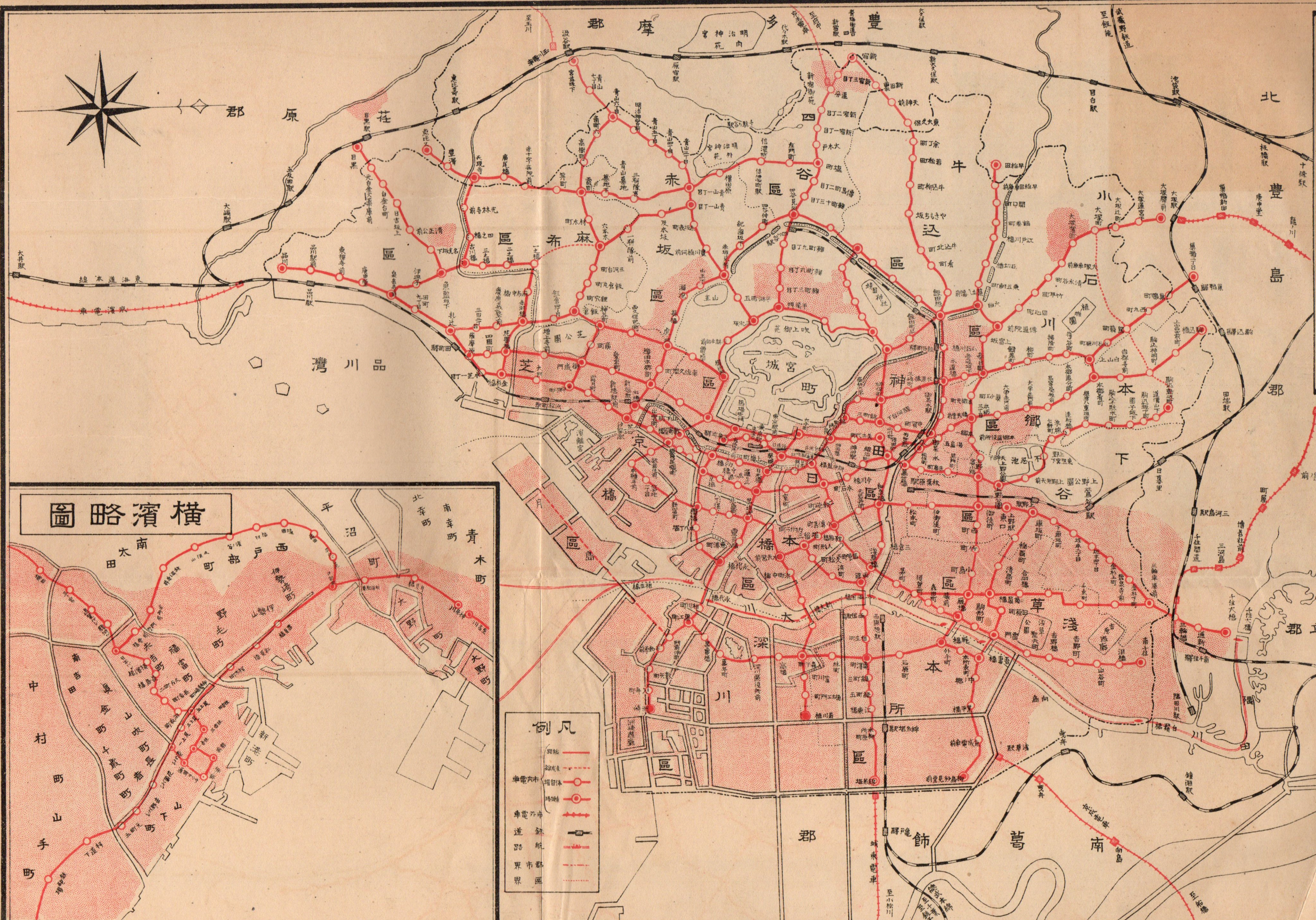
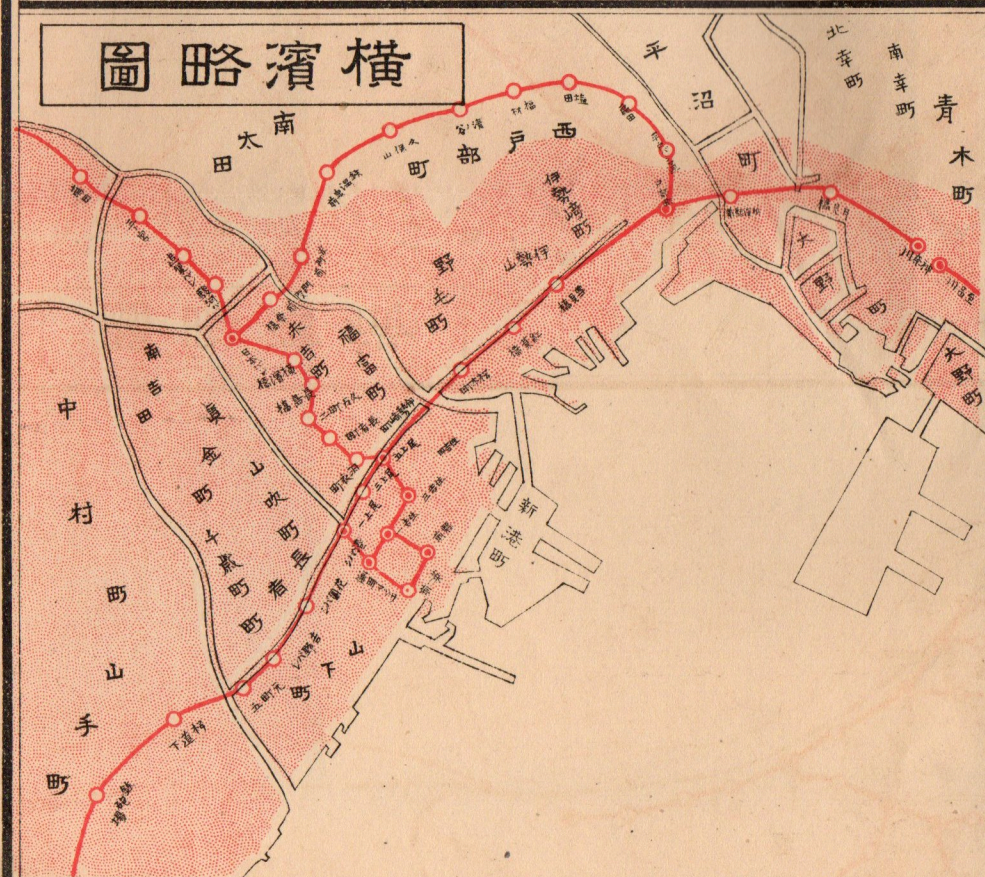
無線電信は利用せられ飛行機隊は活動を初め戒嚴令は布かれた、地方との聯絡は不完全ながらも達せられ市内の通信機關の欠陷は電信隊の活動によつて軍用電話にて生氣を帶びるに至つた、武裝せる軍隊は警察及各自警團と相俟て秩序の恢復に努力した。

弊社は此の恐るべき災害に際し、多大の勞力を費し困難を排して大災害の全般に亘り細大漏さず茲に紀念寫眞帳を完成する事を得た、其の內容の充實に至りては固き自信を以て居る、希くば一本を座右に備へられ好古の紀念とされん事を。

大正十二年九月

編者識

震災後之大東京略圖
横濱略圖
凡例
宮城
品川灣
荏原郡
豊多摩郡
北豊島郡
南足立郡
南葛飾郡

攝政殿下親しく御視察遊さる

畏くも攝政殿下は災害以來常に御心を惱ませられ夙に遺憾なき處置を執るべき旨爲政者に仰せ出され事に觸れ時に應じて侍臣に災害の程度罹災者の狀態を御下問あらせらる寫眞は御馬上にて銀座街頭御視察の御姿である。

警視廳焰に包まる

日比谷十字街に近く宏壯の建築物であり消防の本部である警視廳も、折柄の强風にあをられ一層猛威を逞ふし猛火の前には施すべもなく一抹の黑煙屋上の一角より揚ると見る間に一面物凄き焰に包まれたのは九月一日午後三時頃である。

帝劇烏有に歸す

氣持ちのよい劇場として東洋で有名であつた帝國劇場も、遂に燒け落ちた白い化粧煉瓦の外廓も　煙の爲めに黑くいぶり美しい壁畫も舞臺裝飾も衣裝も凡て跡形もなく、俳優は漸く身を以て逃れた。

帝室林野局全燒す

九月一日午後二時頃帝室林野局は火を失して燒け始めた。濛々たる黒煙はあらゆる窓から吐き出され、黒煙を縫ふて紅蓮の焔は物凄く、消防隊の奮鬪も其の効なく益々其勢を逞ふし遂に全燒するに至つた。

二重橋前避難民の大混雑

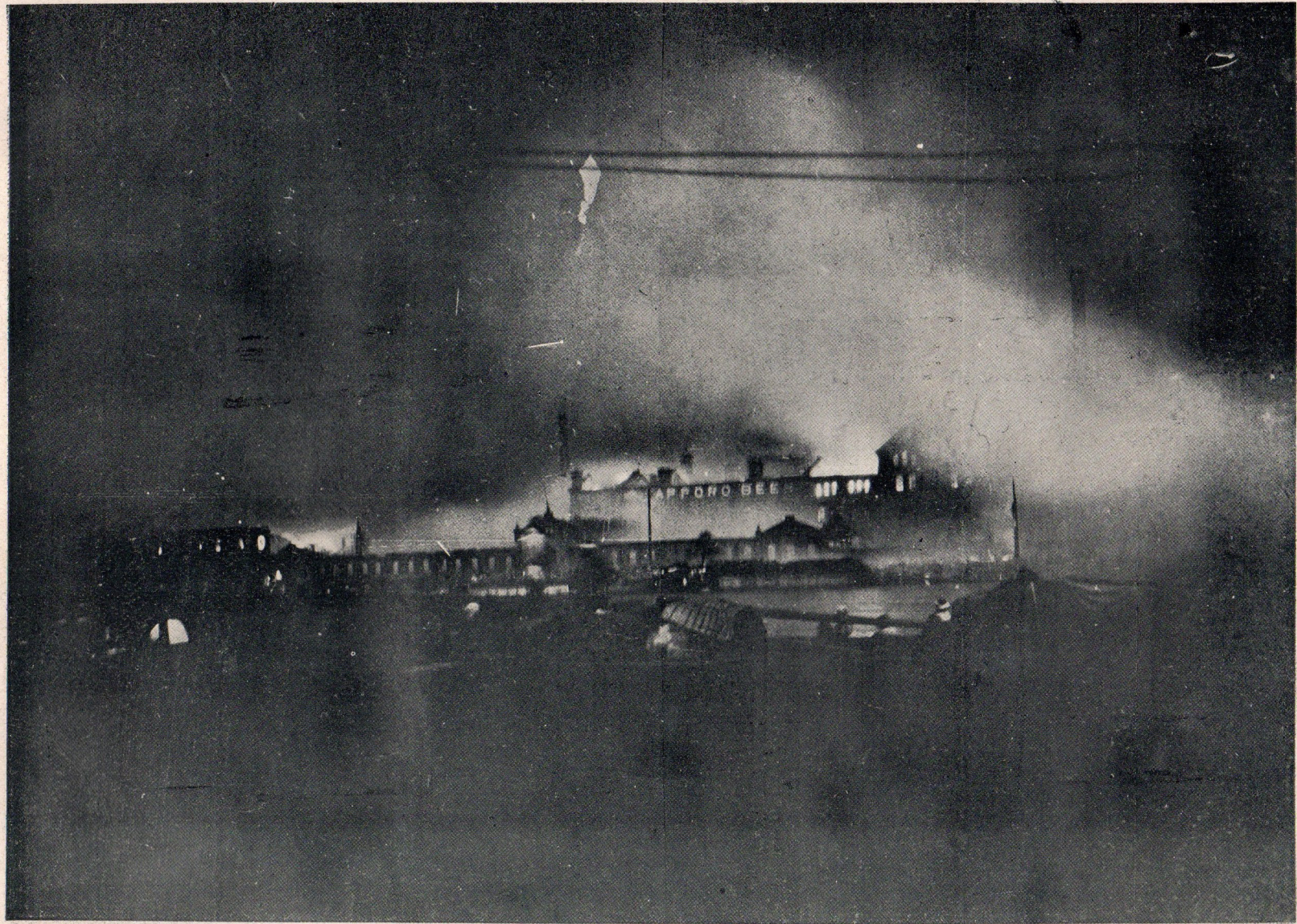
猛火に追はれた避難民の大群集が、宮城二重橋前の廣場に集まりたるもの、九月一日午後四時半撮影

江戸川方面の火の海

江戸川方面は一日午後四時已に猛火天に冲し、右往左往逃げ迷ふ人の叫も物凄く、川に繋がれし船に我先きにと乗り込み下流に逃れし人も多数であつた。

日比谷方面最初の火の手

九月一日正午遠雷とも思はるゝ響きと共に震動し初めた、地震は刻一刻激しくなり、家より街に免れ出たと思ふ間もなく火事だとの叫びは聞えた、有樂町附近より火焔をあげて居た、此の火が日比谷方面全燒の根源となつたのである。寫眞は燃え上りし最初の火の手である。

サツポロビール會社燒く

火は向島に移りサツポロビール會社は全燒した、暗は四圍より逼れども天に冲する火焔は物凄く屋根を渡る火の流れは何物をも燒き盡さん勢である。

吾妻橋電車橋の大破壊

淺草名物の一つ吾妻橋の電車專用橋は大地震の襲來と共に見る〳〵飴のやうに曲り大破損の慘狀を呈し、慘死者數百名を出した。

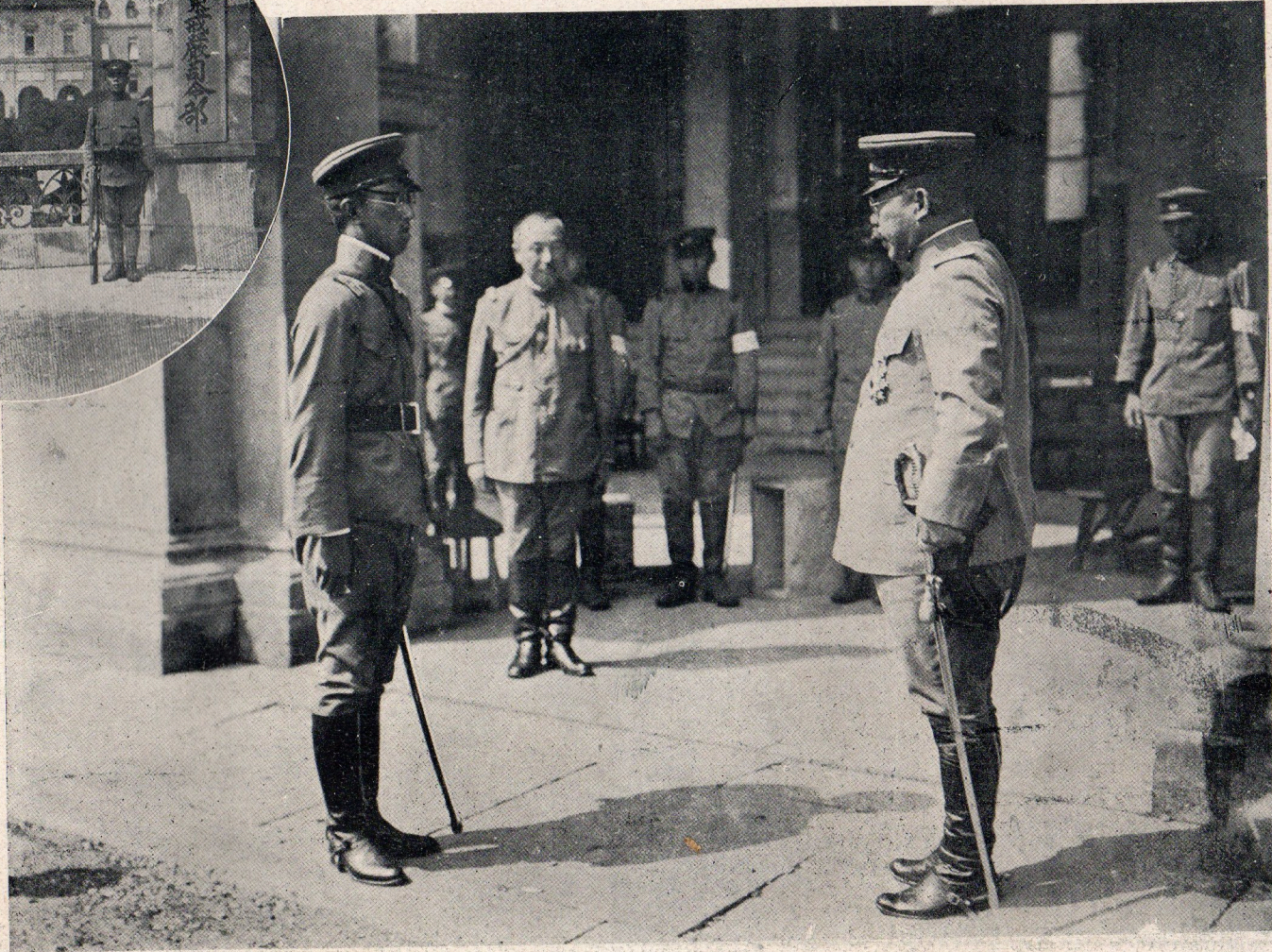
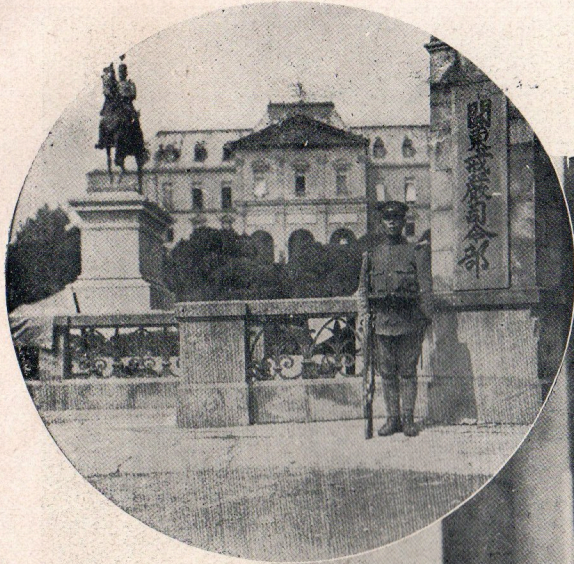
越中島方面の火焔天を焦す

火災は二日に至るも尚止まず、午後四時には深川越中島にある糧秣廠を襲ひ延ひて、神田島町月島を燒き盡した。寫眞は千米突の空中より同方面を見たるもの

避難民續々上野公園へ

四方八方から焼け出された人々は、唯一の安全地帯として上野公園めざして押しかけ一日午後四時頃には其の數已に三萬と稱せられ、さしもに廣き上野の山も立錐の餘地なき迄になつた。

戒嚴司令部と司令官

大震火災一度帝都を破壊するや、當局者は治安維持の爲め九月二日戒嚴令を發布して司令部を參謀本部内に設置し、福田雅太郎大將司令官に任ぜらる、寫眞は戒嚴司令部と司令官に報告中の賀陽宮殿下

萬世橋停車場の燒跡

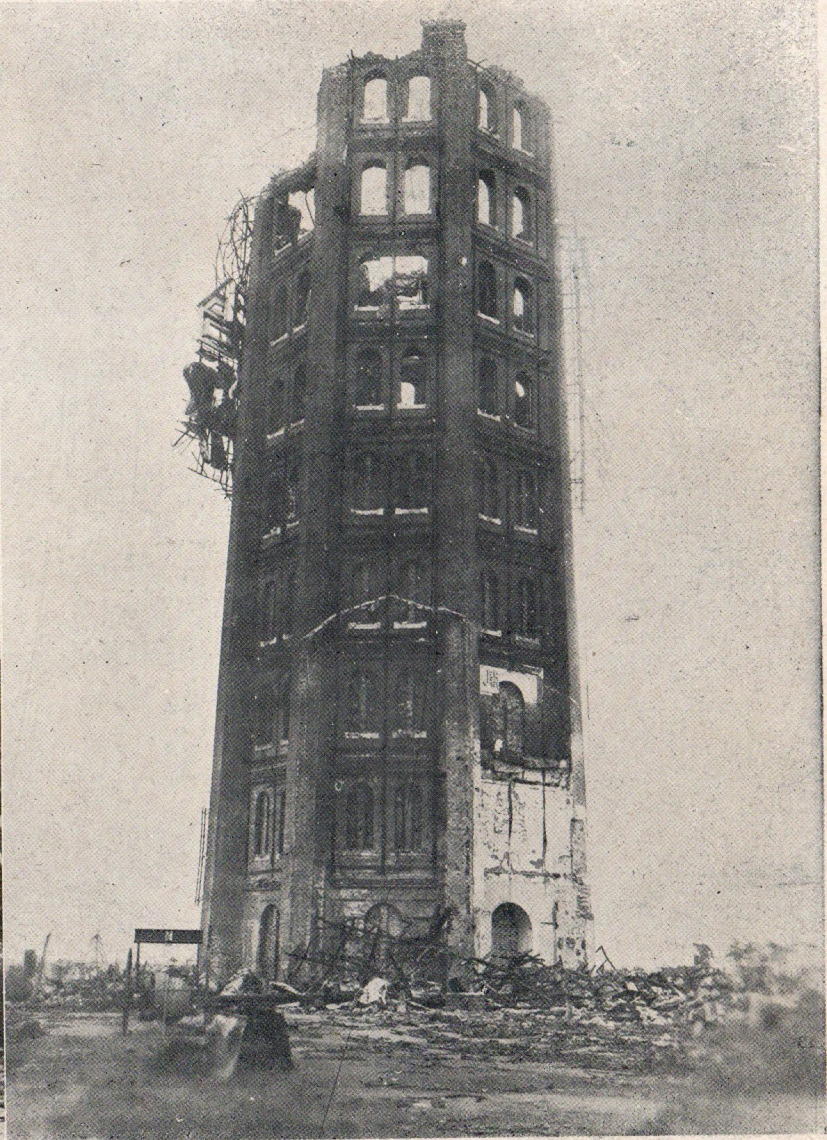
神田街に屹立して帝都の美觀を添へたる萬世橋驛も、燒け落ち僅かに其形を殘すのみとなつた。驛前廣場に立てる軍神廣瀨中佐の銅像は依然として此の天災を知らぬ顔に立つて居る。

飛行機上より見たる神田驛方面の全滅

一方に神田の繁榮を控へ、他方日本橋の大通りを有し、其の間にある神田驛附近も猛火の包む所となり、木造家は勿論煉瓦造りも鐵筋コンクリート建築も皆破壊され、且燒かれたのである。寫眞は飛行機上より見たる神田驛附近である。

飛行機上より見たる九段坂方面の惨狀

九段坂上に立ちて遙かに日本橋方面を見れば唯是れ一面の燒野原となり、遙かに東京灣の船の影を望む事が出來る。寫眞は飛行機上より見たる九段坂方面にして街路一つ隔てゝ一方は荒野となり他面は震害を蒙り大破して殘つて居る。

名物十二階が八階となる

東京名物として廣く其の名を知られた十二階も强震と同時に轟然たる音響と共に八階からポッキリ折れ多數の死傷者を出した、寫眞は破損前の十二階と破損後の十二階。

淺草活動寫眞街の全滅

淺草の繁榮と人氣は何と云つても活動寫眞にあつた。日活、松竹、帝キネ、大活等封切り場として互に覇を競つた活動街も、全く昔日の面影を留めず、民衆誤樂地として有名な公園六區もかくして滅びた。

新吉原不夜城も今は暗黒の荒野

詩歌管絃は絶ゆる時なく三千の美妓は裝をこらして遊冶郎を蕩かし不夜城の巷であつた吉原の高樓も見る／＼火炎に包まれ驚きの餘り度を失ひたる遊女達が悲鳴を擧げて逃げ迷ひ遂に燒死せるもの六百餘名有爲天變の世の中をまのあたり見る心地がする。
寫眞は角海老より大門方面を望む。

柳橋より兩國橋國技館遠望

新橋と並び稱され俠氣をもつて鳴らして居た柳橋も、炎々たる火の手には一たまりもなく全滅し、數百の美妓も今やいづこ、あわれはかない昔の夢となつた。右方に見ゆるは兩國橋及國技館。

悲惨を極る白骨の山

周圍より襲ひ來る火炎に包まれ阿鼻叫喚の内に參萬有餘の生靈は空しく白骨と化した一株の香煙一束の花輪は恨み深き悶死者の靈を弔ふて居る寫眞中央は白骨の山にして周圍は回向の花と遺族の人々である遺族ならでも數行の涙をそゝがないものはない。

御利益で助かつた浅草觀世音

公園六區、新吉原を初め、全區灰塵に歸した中にも、淺草觀世音のみは不思議にも難を逃れ、今は却つて避難場所とされて居る、都人子の信仰を一身に集めたのもさこそとうなづかれる。

芝浦より乘船する避難民

交通機關は破壞され、住ふに家なく着るに衣服なき避難民は、政府より無賃輸送するとの報により續々芝浦に集まり、日々數萬の避難民は關西方面へおちのびる。

食糧品山積する芝浦海岸

無線電信により飛行機通信によつて、東京の災害が關西方面に通ぜらるゝや軍艦、汽船は直ちに食料品を滿載して續々芝浦に入航し、政府は人夫を督勵して極力市内に運搬して居る。

帝國大學の一部燒失

學府の最高權威であり學術の淵源である東京帝國大學の一部分は灰塵に歸した得易からざる古今東西の珍書の大部分は失はれ苦心の結果集められた標本及參考品も大半燒失した。寫眞は帝大の八角堂である。

危く難を免れた日本銀行

中央銀行としてあらゆる金融經濟方面の中心機關である日本銀行は幸にも僅に其の一部分を燒失したのみでさしたる被害もなく今や經濟的救濟策に全力を集注して居る。

虚榮の中心三越の惨状

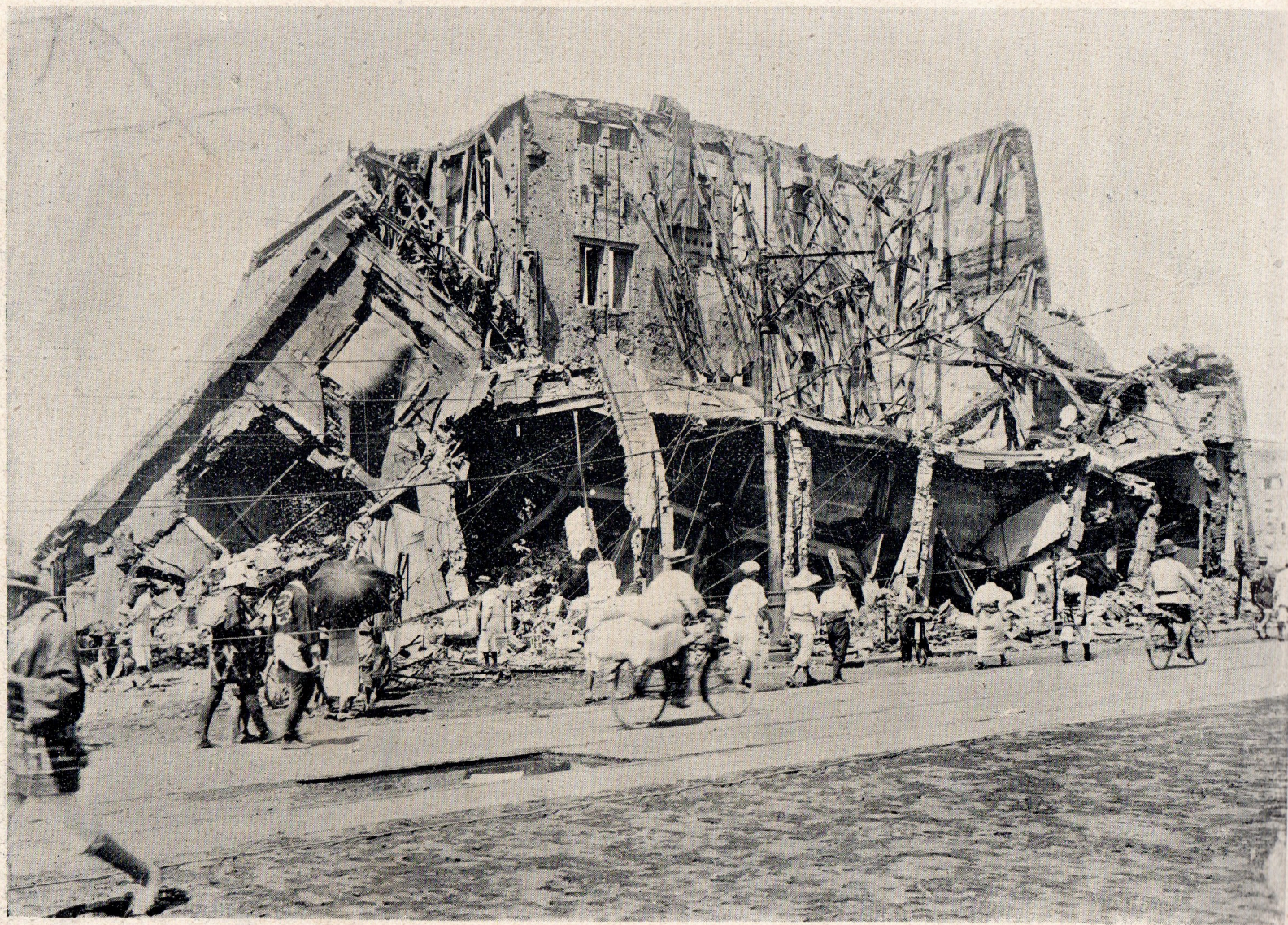
さしも繁榮を誇りし日本橋通り、其の内にも壯麗目を驚かす許りの三越呉服店の七層鐵筋コンクリート建物も、炎々たる猛火には一とたまりもなく内部は全部烏有に歸し今や僅に其形骸を止むるに過ぎず、虚榮の源泉と云はれし三越も今や全く夢の如き觀がある寫眞左は三越右は三共製薬及山口銀行、惰圓の中は背面から見た三越呉服店

白木屋繁榮の夢の跡

三越と並んで流行の中心だと云はれた日本橋通りの白木屋呉服店は、殆んど其の形をも留めず、僅かに飴のやうになつたエレベーターの鐵骨が繁華の昔を物語つて居る。左方遙に見える高塔は三越呉服店である。

銀座の繁榮も昔の夢

四季を通じ疲れた都人子の頭を清涼ならしめたものは、何と云つても銀座通りの散策であつた、あこがれの行路樹も今は全く跡を止めず、震害の爲めに立往生となつた電車は更らに猛火に包まれ鐵骨のみとなつて哀れな姿を止めて居る。寫眞は芝口より銀座通を望む。

丸善の萬卷新刊書灰となる

海外文化紹介の主要機關として讀書子の間に重寶がられた丸善書店も毒咜の舌の如き火炎に見舞はれては施す術もなく萬卷の新刊書籍も見る〱烏有に歸した。

文華の中心である日本橋附近の惨害

日本橋を中心とする西翼には三越白木屋あり。稍離れて松屋高島屋等のデパートメント軒を並べて婦女子の虚榮慾をそゝつて居つた。尙海外文化紹介の主要機關として、讀書子の間に重寶がられた丸善もある。千金の金衣も萬卷の書籍も一介の灰に歸した寫眞は帝國の中心である日本橋、其向ふの高塔は三越の殘骸である。

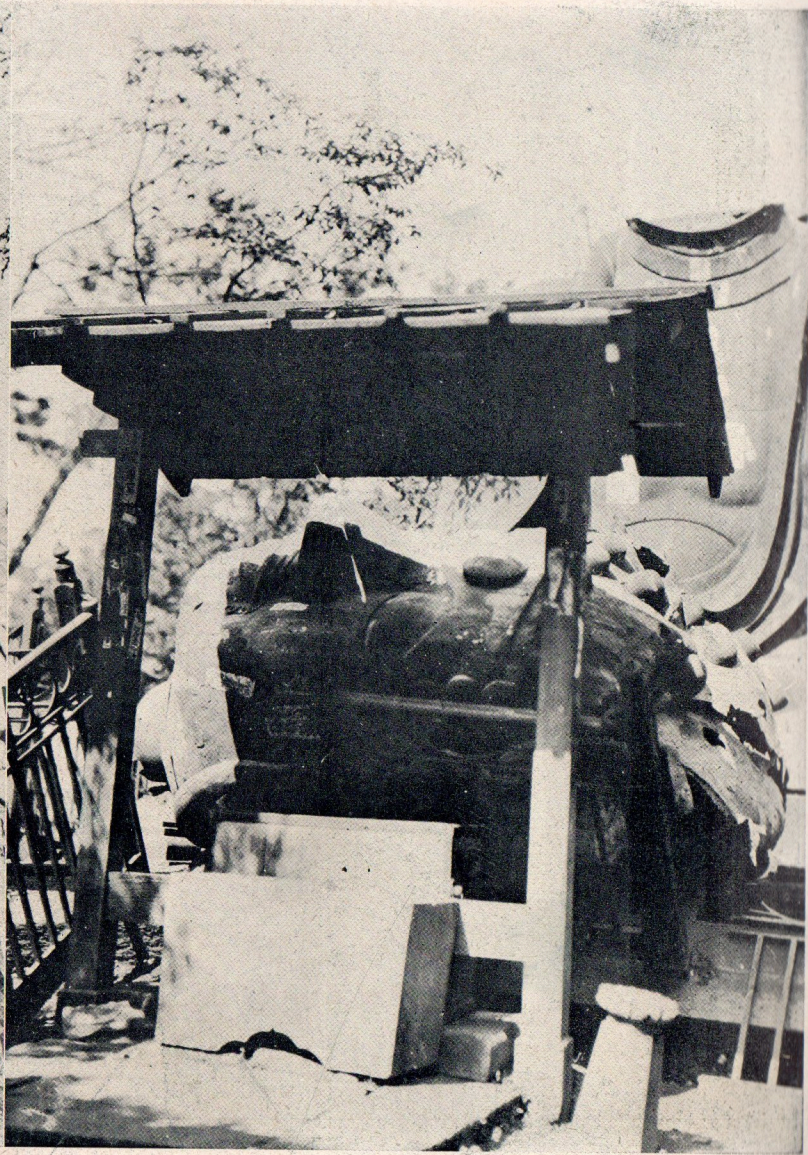
ニコライの鐘の音も今は空し

一種の哀調を帶びて鳴り響いて居つたニコライの鐘の音も、今は聞くよしもなく昔を偲ぶ殘骸を徒らに高臺に暴して居る。寫眞は神田小川町附近より駿河臺方面を望みたるもの。

品川彌次郎子銅像の破壞

極端な選擧干渉と物凄い辣腕とを以つて敵味方共に恐怖せしめた九段坂上の品川彌次郎子の銅像も、基礎工事の弱かつた爲めか、もろくも倒壞して哀れなる姿となつた。

首の落ちた大佛と立退先案内の西郷翁

第一第二と襲ひ來る大地震に、さしもに丈夫な上野精養軒前の大佛も首が落ちて哀れな姿となり維新の元勳西郷翁の銅像も一面に紙を貼布せられて寄せ來る避難民の『立退先』案内者のやうな有樣となつた。寫眞右は首の落ちた大佛左は立退先案内の西郷隆盛翁の銅像

急行列車燒失

一日正午東京着の上り急行列車が、恰も濱松町停車場を通過する殺那强震起り、運轉は不能となり、其の回復を待つ間もなく、各方面に起りし火災は猛りに猛りて停車場を襲ひて燒き盡したのである。

自然の惡戲物凄き大龜裂

激震と共に大地は破れて溝を作つた東京に鎌倉に御殿場に、自然の惡戲は思ふだに恐ろしく身の毛もよだつ許りである。寫眞右は宮城前馬場先前にして左は御殿場附近の地破れである。

上野淺草方面の慘狀

北日本の關門である上野驛附近には、公園、博物館、美術館、動物園がある。廣小路の松坂屋を中心とする商業地もある。少し離れては淺草もあつて地方から來た人は是非見物する所であつたが、炎々たる火の粉に包まれたる間に烏有に歸して荒野となつた。寫眞は上野公園より上野驛の形骸を通じて遙かに淺草方面を見た〟である。

淺草仲見世灰となる

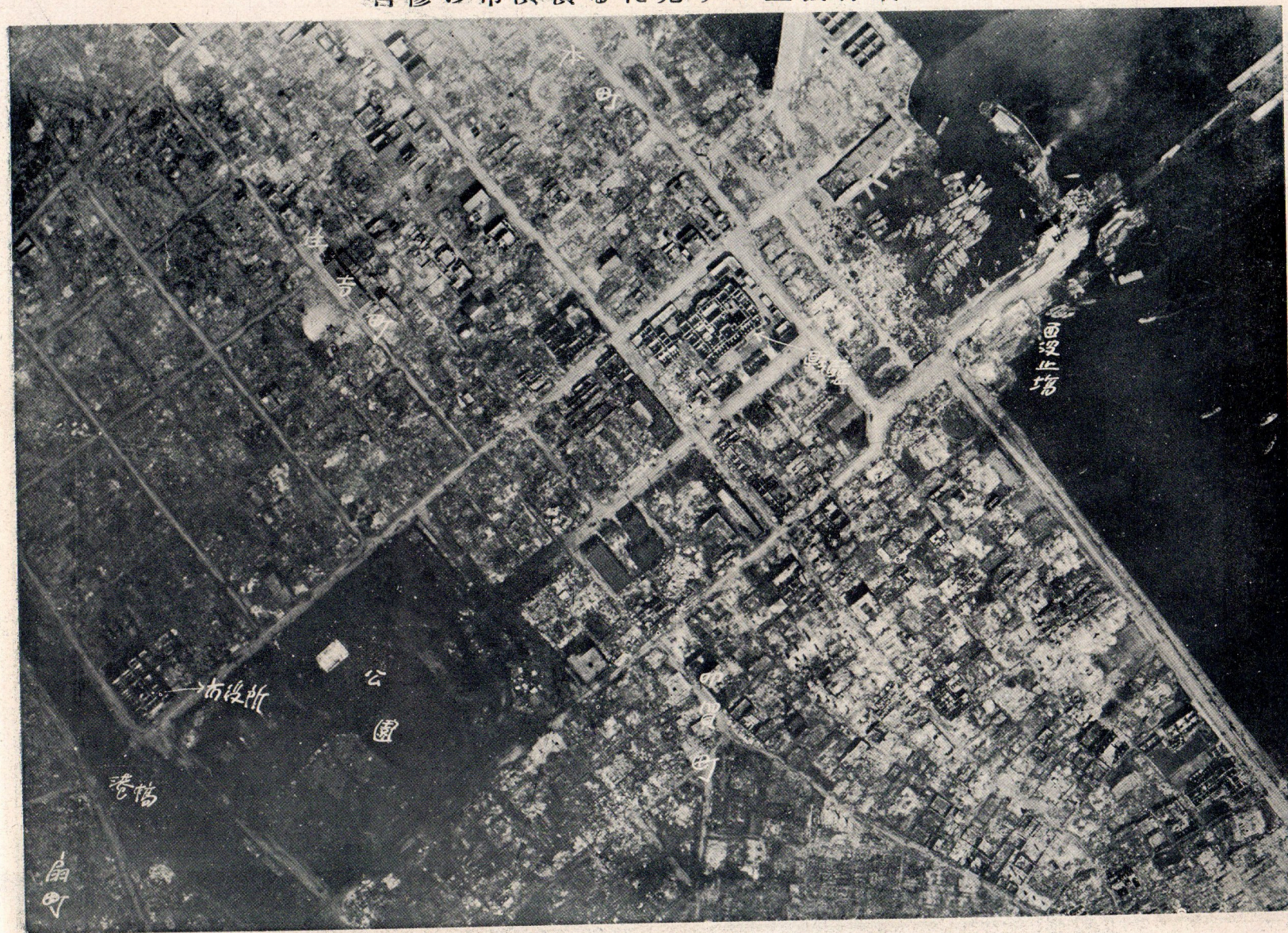
觀音樣を背景とし晝夜行人のたへ間なき仲見世も猛火に包まれ見るまに灰となりて有りし昔の雜踏の影を偲ふよしもなく瓦礫の散在せる樣も哀れである。

二重橋前で避難民の洗濯

焼けあとから運んだ亞鉛板で辛うじて露をしのいで居る避難民は、更らにセメントの空樽を水桶とし、汗と芥にまみれた衣服は二重橋前に晴れがましくも乾されて居る。

花屋敷の象助かる

老幼婦女子の遊び場として一日行樂の巷である淺草は、猛火に包まれ其の内でも、各種の動物を集めて居つた花屋敷も火焔の襲ふ處となつた、咆吼する動物の騒ぎ廻る様は物凄き中に人氣の中心であつた象の一疋は漸く免れた、孤獨となつた象は哀想を感ずる事だらう、寫眞は助けた人と助けられた象。

飛行機上より見たる横濱市の惨害

東京の關門である横濱市は、激震と同時に大部分の建築物は破壊されると同時に火災を起し、街路は龜裂を生じて大噴水し岸壁は根本的に破壊せられて横濱港の復活の容易ならざるを思はしむ。寫眞は飛行機より見たる横濱海岸より公園方面の大觀である。

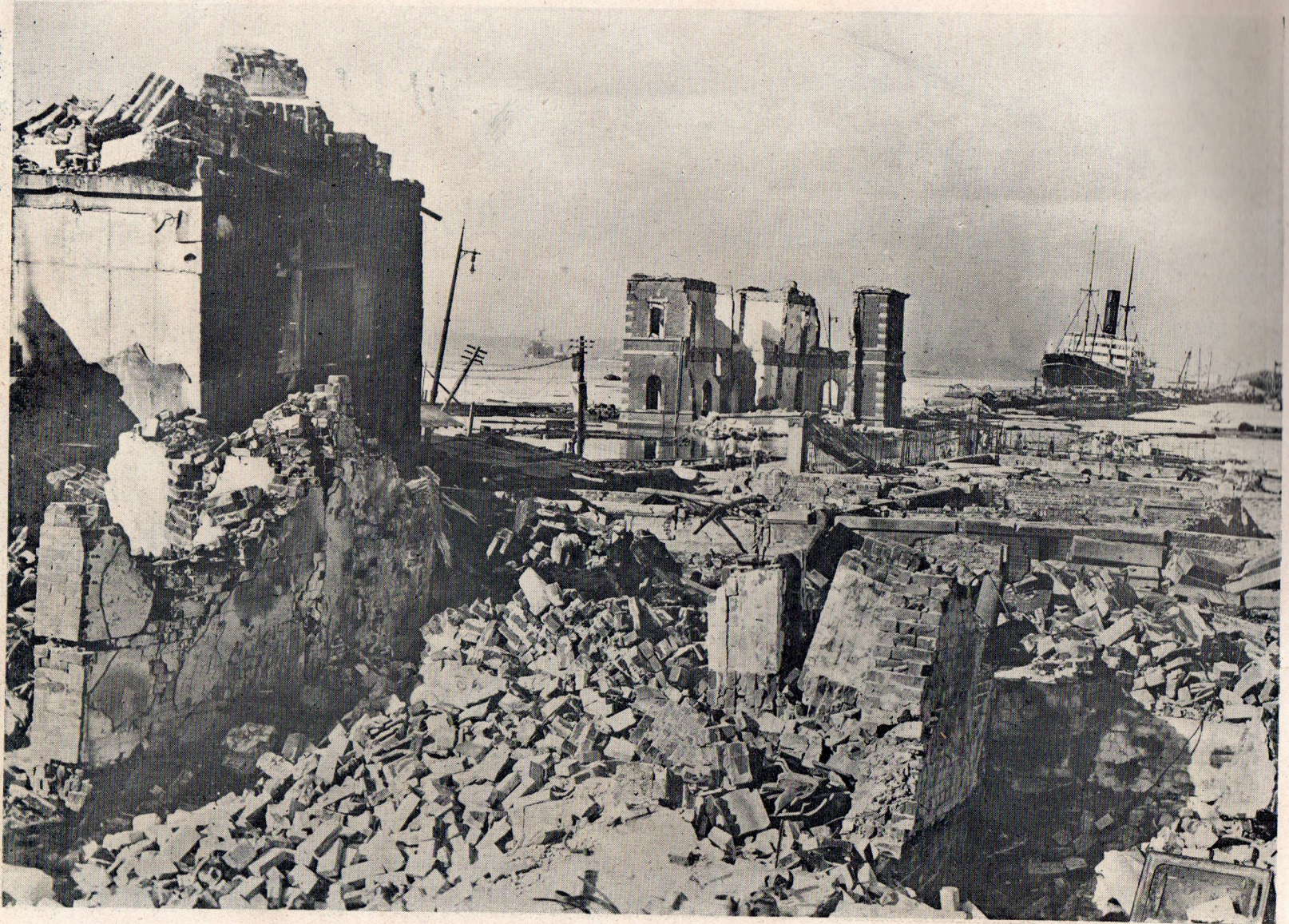
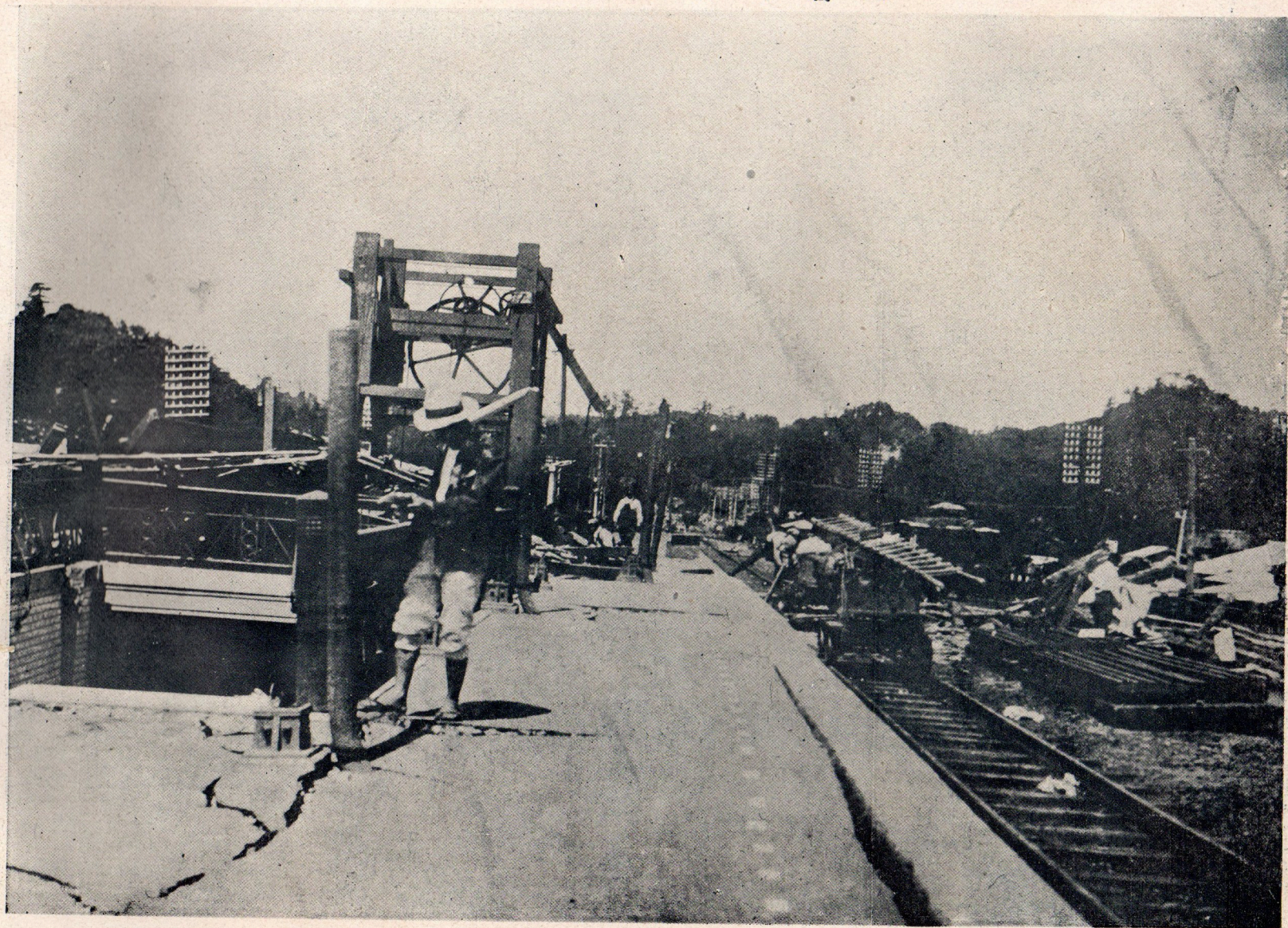
櫻木町より見たる横濱市の慘狀

四通八達海に陸に繁榮を誇りし横濱も今は見る影もなき焦土となつた。半ば燒かれたる街路樹や電線にからまれて倒れかゝりたる電柱がありし昔の名殘りである。寫眞は櫻木町より横濱ステーションを望んだものである。

横濱地方裁判所の慘狀

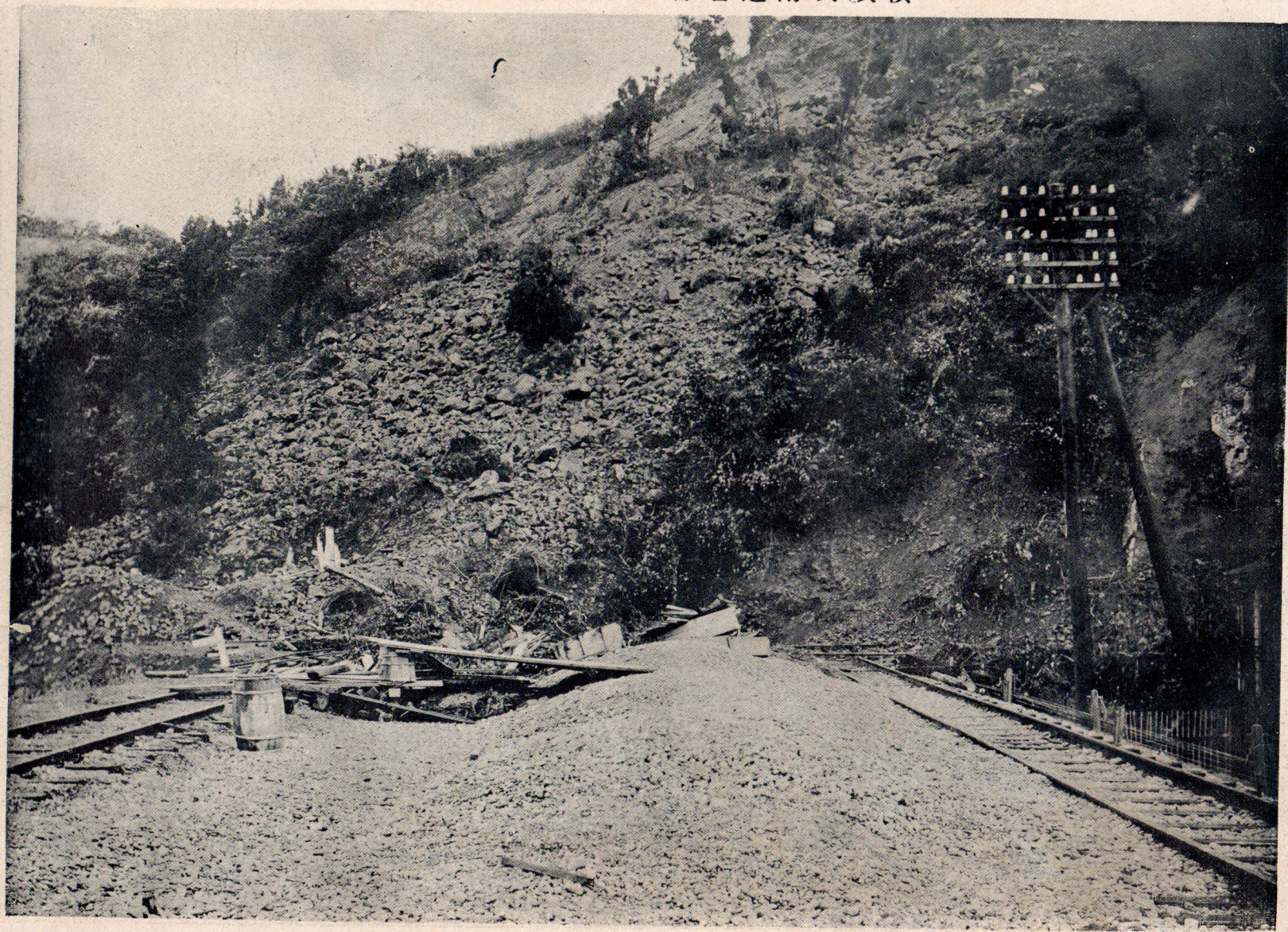
横濱地方裁判所では折柄執務中であつたが、大震と共に轟然一とたまりもなく倒壞し末永裁判所長福鎌檢事正以下四十餘名の判檢事は、全部壓死し見るだに哀れなものであつた。

全潰せる横濱稅關

横濱市の慘狀は實に言語に絶し、只「全滅」と云ふの外はない、嘗ては輸出入品の關門として政府の大財源の一つであつた横濱稅關も、僅かに形骸を止むるに過ぎず　全市荒漠たる燒野原となつた。

鎌倉驛構内の大龜裂

湘南地方でも鎌倉町の被害最も甚しく、大通りは一軒も殘らず倒壞し火災は殆んど全町に及び、幸に火災を免れた海岸側の別莊地帶も突然の海嘯に襲はれて流失し、其の慘狀目も當てられず鎌倉驛も亦全燒して構内一面に縦横の龜裂を生じた。

飛行機より見たる國府津驛附近の慘狀

國府津に於ける慘狀は亦餘想以上甚しいもので鐵道線路は忽ち丘波狀となつた時しも國府津驛西出口に停車中であつた貨物列車は大震と共に脫線して半ば地中に埋沒した

横須賀附近省線トンネル口の破壊

横須賀驛附近震動の爲め山崩れ多く、省線トンネルの入口も崩壊して其の跡もなく、上より落ち來つた石や木が散亂して居るのみである、列車は不通となり交通は杜絶した。寫眞はトンネル入口崩壊の現狀である。

横須賀衣糧庫の倒壊

横須賀附近にある衣糧庫も震害の爲めに倒壊した、多數の被服多量の糧秣の被害甚しく、見る影もなきあさましい姿となつた。

横須賀中里通りの被害

横須賀の中里通りの一部にして、同市としては比較的被害の甚しき所である。

關東大災害畫報

定價金八拾錢

大正十二年九月廿五日印刷
大正十二年十月一日發行
大正十二年十月十日第五版發行

東京市外中澁谷八三〇
編輯兼發行印刷人 市田賢治

東京市外中澁谷八三〇
印刷所 敬文社印刷所

東京市外中澁谷八三〇
發行所 敬文社

不許複製

十二階の爆發

東京　敬文社發行

一部特價金八十錢